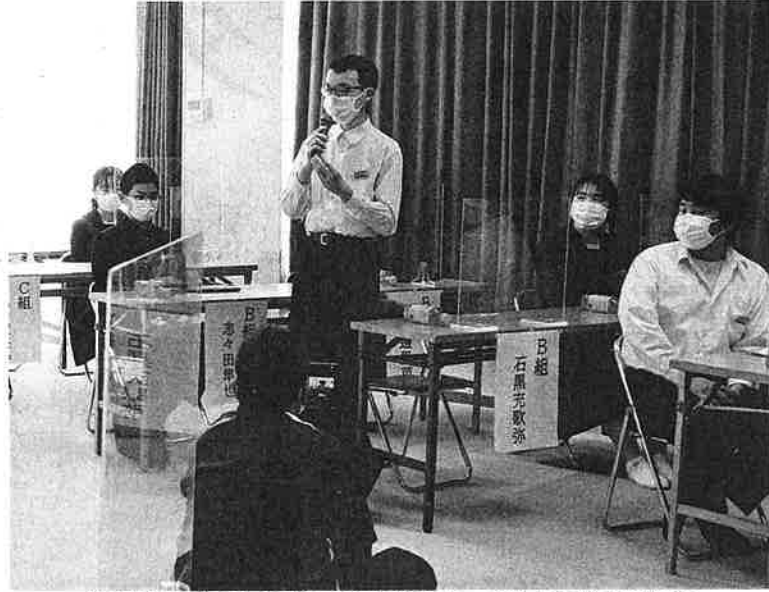




# 住民と地域の未来語る



地域住民と意見交換する生徒たち＝四日市市富田中で

## 四日市・富田中で交流授業

四日市市富田中学校の生徒と富田地区の住民が語り合う「中学生と語る富田の未来」の授業が十七日、同校で開かれた。伝統文化や自然環境、身近な課題などについて生徒たちが調べた成果を発表し、より良い地域づくりを目指して意見を交換した。

(片山さゆみ)

まちづくりの中心を担う住民と交流することで生徒に地域の将来を考えてもらうと、二〇一八年から毎年開催。二年生十一人が三班に分かれて発表した。今回は初めてタブレット端末を使い、授業の様子を各教室にいる他の二年生に配信した。住民側は、まちづくり協議会の役員や地区市民センターの職員ら九人が参加した。

生徒たちは、国連教育科学文化機関(ユネスコ)無形文化遺産に登録された「山・鉾・屋台行事」の一つである鳥出神社の鯨船行

## 鯨船行事や桜並木保全など意見交換

事や、桜並木で有名な十四川の環境、富田地区の石取り祭りなどを紹介。現地に足を運び、調べた内容をスライドにまとめて説明した。

生徒側からは、石黒充歌弥さんが十四川の水質改善について「小中学生も、授業時間で川をきれいにする方法を考えたらどうか」と提案。「十四川と環境を守る会」の辻井明子さんは「前向きな意見をもらえてうれしい。桜の保全や清流化の活動は、昔きれいな桜を見て育った有志たちで始めた。皆さんにも将来関わってもらえることを期待したい」と話した。

木村詩音さんは「祭りに他の地域の人も参加できるようにしてはどうか」と意見。富田鯨船保存会連合会の加藤正彦会長は「まさに今考えているところ。鯨船を組み立てたり、映像に撮ってスマホに発信したりと、さまざまな関わり方がある。ぜひ手伝ってほしい」と歓迎した。

石黒さんは「地域の方々と交流する機会は初めてで、とても勉強になった。十四川の桜が大好きなので、保全活動に関わってみたい」と話していた。